

おひさまだより



園長 免出 智美

舞い散る枯れ葉や冷たい風に冬の訪れを感じる頃となりました。早いもので、今年も残すところ1か月となりました。今月は、焼き芋会、餅つき会、クリスマス会と楽しいことがいっぱいです。園では年末にかけて子ども達と大掃除を行い、部屋や箱椅子や机などを奇麗にしながら、ものを大事に扱う大切さや、ものに感謝する気持ちを改めて感じて、今年を締めくくりたいと思います。

12月行事予定			
月	日	曜	行 事 予 定
12	3	水	園庭開放（未就園児） 小学校交流（ひかり組）
	5	金	焼き芋会
	13	土	保護者交流会（うさぎ組）
	16	火	身体測定（乳児組）
	17	水	おひさま広場（わらべ歌）
	18	木	身体測定（幼児組）
	19	金	餅つき会
	24	水	クリスマス会
	29	月	保育おさめ
1	5	月	保育はじめ

※変更の場合あり
お弁当の日：13日、27日
★1月24日（土）乳児組保護者交流会
★1月31日（土）そら組保護者交流会

～非認知能力を育てる遊びのレシピより～

「子どもだって一人前！」

家庭で育つ存在と認識することが自己肯定感を育む

まだできないことは多いけれど、自分なりに生活に参加して家族の一員としてやっていきたいと思うようになります。たとえ「お手伝い」といっても、本当は自分が「主役」、大人の生活に子どもを「入れてあげる」のではなく、子どもを小さな主役としてお手伝いをしてもらいましょう。



野菜を洗う・皮むきなどは乳児さんもできますね。

幼児組は、毎朝9時まで雑巾がけをしています。ぜひ、絞り方、拭き方をお家でも教えてあげてくださいね。握力もつきます。



「自分で」「いや～！」が多い時期、子どもは生活の主役として頑張ろうとしているものです。身辺自立も子どもがやりやすいように、置く場所を決めるなど参加できるような小さな工夫が、子どもの自己肯定感を高めています。

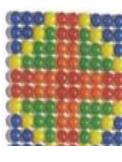
どんな玩具がいいの？

赤ちゃんに与える食べ物は刺激の少ない物から与えるように、おもちゃも刺激の少ないものから与えるようにしましょう。暴力的な物や刺激の強い物はなるべく少ない方がいいと言われています。強い刺激物を食べさせて育てると味覚が育たないように、**強い刺激的なおもちゃ（強い光、音、暴力的など）**を与えて育てると面白がる心や感動するこころが育ちにくく遊び下手になるかもしれません。脳の成長期にはできるだけ脳を使う遊び「不思議→なんでだろう？→試してみよう。」と思うような遊びとおもちゃが大切です。子どもが欲しがるからとおもちゃ遊びも子どもだけに任せないで、子どもの成長を考えて大人が選び与えることも大切です。

～岩城敏行著 幼児のおもちゃより～



プリズモ



リモーザ



ロンディ



ハンマートイ



クラシックレール



コロコロシロホン



エトユコ チェーン

子どもと一緒に遊ぶことは自己肯定感を育てるためにとても有効です。一日10分、一緒に遊んで笑って過ごす時間を持つていただきたいですね。

子どもは、遊びからたくさんのこと学んでいます。「何を感じ」「気付き」「理解できる」ようになるのか、「試す」「工夫する」「表現する」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。



どんぐり（0歳児） 「ぱくぱくぱく！」

たくさんの料理の中から好きな物を選んで食べる中で、自分が食べやすい大きさにかじって食べる姿が見られています。「おいしいね！」などとやりとりをしながら、楽しい給食の時間となるように関わっています。

たけのこ（1歳児） 「あたしの掃除機」

大きな植物を身近にある掃除機に見立てて、友だちとお掃除開始！「ここも汚れてるね～」「ピカピカ！」「こっちも！」と小さな可愛いお掃除屋さんの誕生です。自然物に触れて、身近にあるものに見立てて再現することを楽しんでいます。



りす（2歳児） 「どっちが大きい？」

初めての場所に「なにがあるかな…！」と期待感を感じながら歩いています。たくさんの木や葉っぱに、「これはなんのき？」と興味をもって保育者に聞いたり、「どっちがおおきいかな！」と木の高さと自分の背の高さを比べながら自然遊びを楽しんでいます。

うさぎ（3歳児） 「自分たちでつくるんだ！」

給食先生と一緒にクッキングをしました。芋ほりの経験からさつまいもに親しみをもっている子どもたち、実際に芋に触れたりつぶしたりする中で感じたことを言葉で伝えようとしています。子どもたちと一緒に野菜に触れたり調理をすることで興味や関心になり食べる意欲にも繋がっています。



そら（4歳児） 「それぞれの工夫」

焼き芋が待ち遠しい子ども達。焼き芋に向けて何かしたい！手伝いたい！自分達で火をつけてみたい思いが高まり、火がよく燃えるように取ってきた焚き木を折ってみました。焼き芋と云う目的を共有出来る事で自然と協力・応援する姿も生まれ、みんなで創意工夫しながら自分の力・道具を使う事を楽しみました。

ひかり（5歳児） 「浮くの？沈むの？さあ～どっち？」

”スダジイ”と”シリブカガシ”を水に入れて実験する中で「浮いた！」「沈んだ！」を色々な視点で考えて楽しんでいます。虫が食べたから軽いのか、寒くて実が小さくなつたから軽いのかなど意見を出し合っています。正解かどうかではなく、自分が今まで経験してきたことの中で気づき、実際に見て確認することで”もっと詳しく”という探求心にも繋がっていきますね！

